

立命大出身の藤原さん

立命館大出身でプロ野球阪神の投手だった藤原正典さん(28)が昨春から京都市内の医療施設に就職し、野球塾を開いている。現役時代とは全く異なる職場で普段は窓口業務を担当しながら、週1日、小中学生を指導する。エース左腕として活躍し「人生を変えてもらった」という大学時代を過ごした京都の地での「再登板」で奮闘中だ。

元 阪神投手京で 野球塾



小中学生向けに野球塾を開く元プロ野球選手の藤原さん(京都市中京区・洛和メディカルスポーツ京都丸太町)

練習場所は洛和会グループの「洛和メディカルスポーツ京都丸太町」(京都市中京区)。藤原さんは送球や打撃の基本を丁寧に指導する。「そう、いい当たり」と声をかけると、子供たちの目が輝く。「やる気にさせる魔法の言葉があります。プロ野球選手も同じ練習をしているんだよ」と。自主性を養う指導に重点を置いている。

県立岐阜商業高から立命大へ。鋭いスライダーを武器に関西学生リーグで2度の最優秀投手に輝くなど、大学通算16勝を挙げた。2009年のドラフト会議で阪神から2位指名を受けて入団し、6年間で通算58試合1勝0敗、防御率3・12。育成選手への変更を通告されたことを契機に、15年12月に引退した。教育リーグやトライア

プロも同じ練習しているんだよ

小中学生に「魔法の言葉」

ウトで好投できたことで、「逆にすっきりしてしまった」と区切りをつけた。

第二の人生を模索していた時、学生時代から世話になっていた、洛和会の非常勤の京都府立医科大学整形外科医に誘われた。立命大時代の恩師である松岡憲次前監督の影響で以前から指導者に憧れを抱いており、就職を決意。スポーツリハビリに力を入れる洛和会も藤原さんの経歴を評価し、野球指導だけでなく職員として働くことになった。

丸太町リハビリテーションクリニックの窓口立ちつつ、週1日、終業後に野球塾を開いている。生徒は小中学生20人。「プロで野球の正解をたくさん見ている」と経験を伝える。健康運動指導士資格のある同僚とともに適切な体の使い方方も教える。指導者1年目で試行錯誤しながらも、「こつこつやる子が勝つ。そこはモットーにしたい」。プロ野球選手の誕生を夢見て、子供たちと向き合う。

(山下悟)